

4月の銅マーケットレポート及び5月の見通し

予想レンジ

LMEセツル 5800-6500ドル

● 変わらず

建値

730-830円

● 変わらず

為替

119~121円 (1か月間TTM)

● 変わらず



橋本アルミ(株) 橋本健一郎

前半はギリシャ改革案をめぐる同国とEU、IMFの実務者協議が合意なく終了したこと。

3月の米雇用統計で非農業の雇用者数の増加が予測の24.5万人と大きく下回る12.6万人と13年12月以来の低水準だったこと、失業率が横ばいの+5.5%と6年半ぶりの低水準だったことを受けて米利上げ時期の後退観測が台頭したことなどのプラス材料もあったが、FOMC(3月17~18日開催)議事要旨で、利上げ時期に対する委員の見方が割れていたことが明らかになったこと、英ファイナンシャルタイムズがギリシャのデフォルト準備について報じたことなどを嫌気しDOWN。

4月15日時点 5916.50(セツル)と月初価格より134ドルDOWNの前半締めとなった。後半は、4月のNY連銀製造業景気指数は-1.19に低下、予想は+7.17。3月の米鉱工業生産指数は前月比0.6%低下、

◆貿易関連指標

輸出 財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が+50.5%の5万7053t、スクラップが+21.1%の2万4910t。

輸出	1月	2月	3月
電気銅	3万8609t	4万2936t	5万7053t
前年比	0%	+20.9%	+50.5%
スクラップ	1万4262t	9527t	2万4910t
前年比	+11.1%	-45%	+21.1%

【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比-0.6%の6万9590t

内需 5万7160t -2% 5カ月連続マイナス

輸出 1万2430t +6.4% 8カ月連続プラス

銅条 2万1580t +4.4% 21カ月連続プラス

黄銅棒1万5262t -8% 8カ月連続マイナス

最近の傾向として 堅調な板状にに対して、銅管、黄銅棒が前年対比でマイナスが続いている

【銅電線出荷量】

前年比-1.1%の6万2700t

うち 国内 -1.7% 輸出が +12.8%。

通信 +18.7%、電力 +27.6% 電気機械 -0.6% 自動車 -7.2%

建設電販 -3.2% その他内需 -16.1%

予想は0.3%低下などの米経済指標の悪化。

4月のユーロ圏PMI速報値は総合が53.5に低下、予想の54.4を下回るなどのマイナス材料もあったが、ECB専門家調査、ユーロ圏GDP伸び率を2015年から17年まで上方修正した事米週間新規失業保険申請件数は29.4万件に増加、予想は28万件。

3月の米住宅着工件数は前月比2%増の92.6万件、予想は104万件などによる経済指標悪化からの利上げ時期の後退観測やWTI原油が再び58ドル高の57.74ドル。昨年12月以来の高値マークしたこと。ギリシャ債権交渉団が再編されたこと、国が地方政府救済債券を現金と交換するプログラムを検討しているとの報告を好感し上昇。5月11日現在、後半スタート価格から476ドルUPの6396.50ドル。建値81万円のスタートとなった。

輸入 輸入は電気銅が前年比-53.3%の3499t、スクラップ -14.6%の7010t

輸入	1月	2月	3月
電気銅	4101t	2726t	3499t
前年比	-30.7%	-94.7%	-53.3%
スクラップ	7232t	6027t	7010t
前年比	-23.2%	-17.9%	-14.6%

【輸出】電気銅輸出が前年比+50.5%の5万7053t。銅スクラップは+21.2%の2万4910t。

【輸入】電気銅が-53.3%の3499t。スクラップは-14.6%の7010t。

【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の一6.5%。ただ4月の国内販売台数も前年比+5%と久々のプラス 今後の動向に期待。販売が8カ月ぶりにプラス、輸出も+2.8とプラス。

今月も生産台数が減少しているが販売が8カ月ぶりプラス、輸出もプラス。この流れが5月も続くか今後の動向に注目。

伸銅品 前月はプラスだったが再びの前年比-0.6%。銅条は輸出を中心に堅調さが見られたが、黄銅棒・銅管は住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。今月も伸銅品生産は板条の増加、輸出に支えられてる面もあり内需が急回復するとは考えにくいが住宅着工が12カ月ぶりにプラスだった事から今後の動向に期待したい。 輸出は119-120円(ＴＴM) レンジの大幅な円安トレンドから地金・スクラップともに大幅増加した。輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少したとの見解。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は前月に続き電気銅建値が760円から810円まで急騰した過程で塩漬け玉が発生したが伸銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらず。ただモノによっては在庫過多のものもある。メーカー需要は自動車、住宅販売とともに前年比でプラスだったことから今後に期待したいがまだまだ先行き不透明感が高くやや過剰気味。

【価格・為替予想】

今月はアメリカの利上げ時期、中国の景気動向に左右される。米FRBの最近のFOMCで6月利上げを推奨している委員がいたことから一時NYダウが下落するなど利上げの6月説 9月説 来年説などの様々な憶測がでてきている。最有力は9月説がマーケットのコンセンサスではあるが、いまだ6月説の可能性も排除できない。中国景気動向については、当局はGDPの減少を受け、金融緩和策 景気対策 雇用対策など様々な手を打った。またマーケットもそれを好感。

ただそれに対する効果が現時点では不透明であり、それによってマーケットは大きく揺れ動く。

それらを踏まえた5月の銅価格は、米FRBの利上げ時期が9月以降に後退し、中国経済指標が好転した場合、5月高値 もう一段高の 6500ドルを予測。いずれかの場合6400ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合もう一段安値の5800ドル。

為替は、米FRBの利上げについて再び6月説も台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題でのユーロ安から5月中もドル高傾向がつづくのではないか?

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は119円台。下値は特に新規材料難のばあい121円台と予測。(TTM)

銅建値に関しては730-830円程度と予測している。(橋本アルミ(株) 橋本健一郎)

アルミニウム合金メーカー買値実勢値

(1トン程度・置場・現金・キロ当たり円)

関東地区(5月前半)

2S=182~186円、63S=182~186円、アルミホイール(1P)=180~185円、ビス付きサッシ=154~157円、エンジンコロ=154~158円、込合金(機械鋳物)=148~154円、缶プレス(ソフト)=147~152円

関西地区(5月前半)

2S=173~178円、63S=173~176円、52S=167~170円、印刷版=178~180円、アルミホイール(1P)=176~178円、ベースメタル=190~193円、機械鋳物=146~151円、ドライ粉=128~131円、ビス付きサッシ=145~151円、缶プレス=142~146円

試作から量産へ高い対応力

協栄製作所は先代社長の頃から30年以上、ヤマハ発動機とともにオートバイ関連部品の開発を手掛け、技術力を育ててきた。協栄製作所の石川泰博社長は「実験や先行開発に当社の技術者を招き、熱心に教えていただいただけでなく、われわれに部品開発を任せてくれた。図面通りの製品を作る仕事だけをしていたら、おそらく当社は生き残っていなかつたでしょう」と振り返る。

売上高の約半数が二輪関連部品で、その大半がヤマ

協栄製作所・石川泰博社長

ハ発向け。オートバイの後輪とフレームとをつなぐアームがメイン製品で、ヤマハ発からの受注が100%。デザイン性と機能、軽量化の厳しい要求に応えている。

ヤマハ発のバギーやマリン製品向けにもさまざまな部品を納入。四輪部門ではサスペンションなどの足回り関連部品を手掛けるほか、新幹線のグリーン席や普通席の回転シート下側の脚台も製作している。

「製品設計力×機能評価力×もの創り力」の相乗効